



家族の勧めで土木の道に進んだ大重岬さん。(株)総合技術コンサルタントに入社し9年目を迎える。今年念願の技術士資格も取得。目標とする上司、やりがいがある仕事と、順風満帆に見えるが入社3年目に立ちはだかった壁を乗り越えたことが今の自分を作っていると語る。大重さんの今後の目標などを伺った。

●技術職を選んだきっかけ

父が建設会社に勤めており、幼いころから土木は身近なものでした。建設を志したきっかけは、高校受験のときです。地元が離島のため、進学は島外です。島から遠いほうが面白そうだと考え、県外の八代高専(現・熊本高専八代キャンパス)を受験。志望は生物工学科でしたが、第2希望の土木建築工学科に合格し、父の勧めで土木の道に入りました。授業は大変でしたが、知識と技術、安全への使命感を学ぶうちに、将来は計画・設計に携わる仕事に就こうと決めました。

●現場の魅力や責務

道路の線形は、地形、地物、コスト面や安全面など考慮して決定しますが、組み合わせは無限大です。設計者だからこそ、「これしかない」と思う最適の線形を見つけ出したときの喜びは格別です。

この仕事は国民の財産や生命を守る役割も担っていますので、社会的責任は大きいと感じています。そのため常に勉強を必要とし、集中して仕事を取り組む必要があるのですが、その分やりがいは非常に大きいと思います。

●仕事のこだわりやポリシー

「常に手を空けておく」ということを意識しています。入社3年目に任された仕事で、独り立ちを促されました。何とかなると思っていたものの、不安な気持ちが全面に出てしまい、空回りの連続。時間だけが経過し、上司へ助けを求めました。そのときの采配振りや、業務の着手方法や回し方の違いを改めて学びました。

仕事は自分だけで抱え込まず、作業を分担する。これを意識すると、仕事のスピードが格段に上がりました。主担当ならばなおのこと、手を空けて迅速な対応ができるように余裕をもつこと。そうすることで、業務を俯瞰して見ることもできます。

担い手シリーズ 25

# 主担当だからこそ 仕事は抱え込まず 自分の手は空けておく

大重 岬 入社9年目(技術士)  
株式会社総合技術コンサルタント



●印象的な仕事

入社5年目で道の駅の詳細設計に、主担当技術者として携わった仕事を思い出します。道路設計とは異なる知識や発想を求められ、様々な関係者との調整も加わり、とても苦労しました。

道の駅の機能は、休憩や情報発信など多岐にわたります。ですが、私が担当した道の駅は、防災機能、多言語化、インターネット環境の整備など、新たな役割が求められました。事例や手法の情報収集に時間がかかったのを覚えています。設計後すぐに施工が始まり、2年後には無事開駅。設計したものが世に出たときは感動しました。式典で近隣住民や報道関係者が集まって、開駅を喜ぶ姿は一生忘れないと思います。

●今後の目標

女性技術者の悩みは、仕事と家庭(結婚・出産)の両立です。近年は環境が変わっても、仕事を続ける方が多くなり、働きやすい基盤が整ってきました。私自身、人生の節目に直面しても技術者として活躍したいと思っています。

また、軟弱地盤の設計に携わったことがあり、地質についてかなり学びました。道路は土の上にあるものです。地面の知識を得ないと、中途端な技術者になると体感しました。将来的には、こちらの分野の資格取得も考えています。



大重 岬(おおしげ みさき)  
鹿児島県甑島出身。熊本高専八代キャンパス卒業。平成25年4月(株)総合技術コンサルタント入社

会社概要

(株)総合技術コンサルタント  
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1-9-3  
TEL. 092-432-0555 FAX. 092-432-0560

<http://www.sogo-eng.co.jp/>